

東部保健医療圏の脳血管疾患の救急医療体制に係る医療連携事業

1 事業区分

令和元年度地域医療介護総合確保基金事業（医療）における病床の機能分化・連携のために必要な事業

2 事業目的

病床の機能分化、連携を推進するため、病床転換及びそれに伴う施設・設備整備を行い、急性期から回復期、在宅医療に至るまで、一連のサービスを地域において総合的に確保する。

3 事業内容

病床の機能分化、連携の推進のための施設・設備整備を行う。

4 補助内容

補助率：1／2

5 事業の概要

事業者名	事業名	要望事業の内容	所要額 (円)	所要額の 積算根拠	基準額 (円)	補助 率	要求額 (円)
鳥取県立 中央病院	脳血管疾患 の専門的な 救急医療体 制に係る医 療連携事業	脳血管 撮影装置 (IVR 対応 パイプレン)	222,919,236	機器本体 194,400,000 円、 脳血管撮影装置と 画像システムとの 接続費用（機器側 17,935,236 円、 画像システム側 10,584,000 円）	222,919,236	1/2	111,459,000

（参考）基金の要望事業に関する背景・地域ニーズ（平成 30 年度末時点）

- ・脳外科医 3 人（脳血管カテーテル治療の専門医ではない）の医師が従事
- ・3 6 5 日 2 4 時間の救急医療提供体制は困難であり、カテーテル治療を目的に域外搬送を行うことが増加する見込み（ガイドラインの変更等により適応範囲が拡大したことなどから）
- ・域外搬送を実施する場合は点滴による血栓溶解治療を実施しながらドクターヘリによる搬送又は陸路の場合は搬送元の医師同乗により搬送
- ・救急輪番の 4 病院が個別にカテーテル治療の適応の判断や搬送調整を行うより、圏域内で医療機能を集約した上で搬送を行うことが効率的
- ・現在脳卒中センターを有しているのは県立中央病院のみ
- ・鳥取県内の脳血管疾患カテーテル治療の専門医は 5 人（平成 30 年 1 1 月現在で西部 4 人、中部 1 人だが西部へ異動となる見込み）のみで東部圏域への医師派遣は困難

6 今後のスケジュール

時 期		項 目	内 容
令和 元年	12 月 6 日	公告	県立中央病院が脳血管撮影装置調達公告（内示後）
	12 月 12 日	通知	県から県立中央病院に事業採択通知
令和 2 年	2 月～3 月	運用検討	県立中央病院内及び東部圏域関係機関による運用の検討
	3 月 31 日	事業完了	年度内に脳血管撮影装置一式納入
	4 月 1 日	運用開始	脳血管撮影装置稼働による治療及び医療連携運用開始